

JHFREPORT



空を直に感じる醍醐味に溢れる航空スポーツ

一般財団法人日本航空協会 航空スポーツ室 室長 高津 良彦

新年あけましておめでとうございます。新たな1年を迎え、貴重な誌面をお借りして新年ご挨拶の機会を頂き誠に有難うございます。

2020年1月に国内で発症者が確認されて以降、ここまで続くコロナ禍も間もなく足掛け2年に及ぼうとしています。この間の社会全般への計り知れないマイナスインパクトは航空スポーツ界全体にも例外なく及び、皆様方も大きな制約下での活動を余儀なくされてきていることと思います。まずは斯様な状況下にあっても日頃より日本航空協会の活動にご理解とご協力をいただいているJHF会員の全ての皆様に心より御礼を申し上げます。

昨秋の緊急事態宣言解除の前後に、

ハンググライダーとパラグライダーそれぞれの日本選手権に伺わせていただき皆様の妙技を拝見させていただきました。

テイクオフ地点から青空に向けて飛翔する場面、或いはアキュラシー競技においては鷹のように翼を広げて大空から舞い降りる場面などに立ち会わせていただき、わが身にもしみ込んだコロナの負のエネルギーが発散する爽快な思いをさせていただきました。

航空スポーツのジャンルにはそれぞれ言い難い魅力がありますが、ハング・パラグライダーの世界は直接大空に触れ、空を直に感じる醍醐味に最も溢れる航空スポーツではないかと思います。また、大空を彩る華やかなハンググライダーやパラグライダーが空を駆け巡る姿は、これを眺める方々を魅

了する大きな要素であり、航空スポーツファンの開拓に大いに資すると感じました。

そしてその魅力は華やかな部分だけではありません。それは、競技会やイベントを安全・安心に終わらせるように陰でささえる運営に携わる皆様が地味に努力をされている姿です。テイクオフエリアまでの林道に落ちる膨大な落ち葉を、利用者の安全を守るために清掃されている方々もいらっしゃると思います。

私も航空スポーツ室の使命の一つに「航空スポーツファンの拡大」がありますが、今年もこのようなしかりとした運営体制の中で展開される魅力溢れるハング・パラグライダーの世界を一人でも多くの方々に知っていただく努力を微力ながら続けて参ります。

これには皆様のお力添えが必要不可欠でございます。本年も引き続き当室の活動をサポートいただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりますが、JHFの益々のご発展と、会員の皆さま、そしてご家族にとって、この2022年が素晴らしい一年となることを心よりお祈り申し上げます。



2021パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI、和田浩二選手が選手権獲得を決めた瞬間。



高津 良彦

コウスヨシヒコ
2021年6月10日、日本航空協会の航空スポーツ室長に就任。空のスポーツの普及・振興事業を推進する。



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

人口減少と高齢化、コロナ後の世界へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 会長 安田 英二郎



日本の人口は減少を続け社会の高齢化が進んでいます。フライヤー会員数は数年中には5000人になるでしょう。JHFは当面はその会員規模に応じた運営を行いながら再起を図ることになります。しかし、地方によってはクラブに所属する会員数の減少によりフライトエリアの維持が困難になりエリア閉鎖という事態も予想されます。先人達の努力によって開設され維持されてきた貴重なフライトエリアがなくなることは大きな損失です。また、JHFは各都道府県連盟を正会員とする組織ですが、フライヤー人口がとくに減少した地域では正会員組織の維持が困難になることもあるかもしれ

ません。

このように大きく変化していく環境の中でわれわれがいつまでも飛び続けていくためには、われわれ自身も変化していく必要があります。パイロットの高齢化に伴う会員数の減少は今後も続きます。その減少を補うだけの新規フライヤーの獲得に向けた努力が求められます。学生フライヤーの大学卒業後の継続率を高めるための魅力作り、競技のSNS中継などによる学生よりも経済力の高い社会人に向けた広報など、新しい時代の道具も使って色々なことにチャレンジしていく必要があります。

フライヤーを増やすための対策の中にはJHFという全国組織が行うべきものと各地の実情に合わせて各正会員や

クラブ、スクールが取り組んだ方が有効なものがあります。JHFは公益性という限界はありますが、できるだけ各地で行われるフライヤー増加策に協力したいと考えています。

さて暗い話題ばかりではありません。2年前から新型コロナウイルスが世界中を混乱に陥れてきましたが、ワクチン普及と新薬開発により光も見えてきました。今年ウイルスが無くなることはないでしょうが、2年間我慢してきた人々の活動領域は大きく広がっていくでしょう。スカイスポーツを含めた人々の活動が盛んになることが期待されます。外に向かいだした人々の興味を引きつけて再起の引き金になることを期待しています。

安全に楽しくフライトできる環境を守りたい

JHF常設委員会の次期委員を募集〈あなたの力を貸してください〉

JHFには八つの常設委員会があり、委員の皆さんはハンググライディング・パラグライディングの普及と発展のために、安全に楽しくフライトできる環境を守るために活動しています。

現在活躍中の常設委員会委員が今年3月31日に任期満了を迎えるため、2022年度・2023年度の2年間を任期とする委員を募集します。

何よりも安全に楽しく飛び続けたい、大切な空の仲間のために何かしたいと思っているあなた、ぜひ立候補してください。各委員会の一員として、JHFの活動に力を貸して下さるようお願いします。

以下、各委員長からのメッセージです。委員経験者の方はもちろん、連盟活動は未経験という方もぜひ手を挙げてください。

ハンググライディング競技委員会

当委員会はハンググライディングスポーツの発展に寄与することを目的とし、主に国内大会の公認・管理・支援、ならびに国際大会に出場する日本代表選手の選考を行っています。

また、毎年改定される国際ルールであるスポーティングコード (Section7) に合わせながら、国内競技ルールの改定を行っています。

ハングシリーズの参加者が100人を切った2008年以降、シリーズ参加者は80人ほど。大会もピーク時の年7～8開催が現在は4大会と減っています。

競技者の増加・育成が思うように進まない一方で、世界選手権の国別順位や個人の世界ランキングは年々確実に上がっており、競技技術の向上に貢献してきました。

競技や記録を通じてレベルアップすることや、仲間を増やしたいなどの情熱のある方の立候補をお待ちしています。(委員長 牟田園明)

パラグライディング競技委員会

パラグライディング競技委員会の主な活動は、ジャパンリーグ、ジャパン2リーグ、アキュラシーリーグ、XCリーグの運営・管理で、毎年、CIVL (国際ハンググライディング・パラグライディング委員会) のルール改定を考慮しながら、日本の事情に合わせ

て、それぞれのルールの改訂を行っています。

パラグライディングは一般的に、レジャースポーツと思われていますが、競技を通して技能のレベルアップを図ることができ、また競技会がメディアで取り上げられる (例えば、2018年のアジア競技大会や2021年のレッドブルXアルプスレース等) ことにより、社会的認知度のアップに繋がることからパラグライディングスポーツの発展に寄与するところ大なるものと考えられます。

競技に興味があり実行力のある方は大歓迎です。(委員長 岡芳樹)

教員・スクール事業委員会

当委員会は、スクーリングと検定に関する決めごとを作り、実行しています。ここ数年では、上級タンデム技能証の創設と検定会の開催、PG教本・HG教本の改訂版発行、教員更新制度の見直し、といった事業を実施してきました。ハンググライダー・パラグライダーを、より安全で多くの人が楽しめるようにするための基盤を作る、地

味ですが大事な仕事です。

スクールや教員や検定のあり方について「こうすればいいのに」という意見をお持ちの方、ぜひ当委員会に入り力を発揮してください。コロナ禍で、一堂に会しての会議や検定はやりにくくなりましたが、むしろメールやリモート会議で意思疎通をするのが普通になりましたので、居住地に関係なく対等に委員会に参加できます。

(委員長 北野正浩)



補助動力委員会

滑空機の団体、JHFの中で、唯一動力に関する委員会です。まだまだ開拓発展する伸びしろのある委員会でもあるし、委員ひとり一人の考えからすぐに行動に移せる柔軟な委員会でもあります。

動力に関する機材の扱い方から安全基準、操作方法、大会やイベント、安全講習、そして事故などの素早い対応・対策・報告が、この委員会の主な仕事です。

滑空機に使われるすべての補助動力に関する仕事に、あなたもチャレンジしてみたいはいかがですか。スカイスポーツを愛する会員の皆さんに、少しでも楽しく・安全に・そして未来へつながらJHFの力の一人になっていただきたいと考えています。若い力を募集いたします。(委員長 須藤彰)

制度委員会

当委員会は、公益法人であるJHFの諸規定や制度が法律や定款および事業目的に抵触しないよう、ならびに諸規定や制度相互の整合性を確認するため活動しています。

[活動の概況]

- ・理事会の諮問に応じて各種規程、規約の新設・改正案を作成する。
- ・全ての委員会と連携をとり、新たな制度案や規程案、また規程の見直しを理事会に提言する。

[制度委員会に求める方]

- ・ハンググライダーやパラグライダーを愛する方。

- ・一般企業・公企業に勤務経験がある、公務員経験がある、或いは自営業を営む方で一般的な社会常識をお持ちの方。

- ・文書の読み込みができ、文書作成ができる方。

- ・パソコンメールや、Zoom等のオンライン会議のできる方。

対象を老若男女幅広く求めています。是非ご応募ください。

(委員長 中瀬誠)

安全性委員会

ハンググライディング、パラグライディングを安全に、安心して楽しめるよう、またそうしてこのスポーツの振興に資するよう、使用機材の技術的な審査、情報収集・分析を行い、また、事故の調査、情報収集、分析を行い、そのほか、安全性にかかわる事案の分析・情報発信を行っています。

これらの作業を行うための経験、知識、能力のある方を安全性委員として募集します。(委員長 伊尾木浩二)

ハングパラ振興委員会

当委員会は「今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り」を主要なテーマとして掲げ、以下のような活動に取り組んでいます。飛ぶ仲間を増やし連携を広げ、多くの方がこのスポーツを永く続けることができる環境作りに関心をお持ちの方を広く募ります。

- ・フライヤー会員への情報提供：JHFレポートやweb等の活用

- ・「フライヤーズボイス」定期更新体制の支援

- ・パンフレット「ご家族の皆様へ」(仮称)の継続的な更新

- ・フライト活動を止めた方、長期休眠から復帰された方の状況調査と分析

- ・永く続けるための安全確保に関する議論、関連委員会との連携

- ・体験会等イベントへの協力

- ・このスポーツを一般に広く知ってもらう社会的に認知してもらう試み

- ・外部組織との連携窓口としての機能

- VR体験(リスクの少ない体験)に関する大学研究室との協力体制維持

- スポーツナビ(Yahoo! JAPAN)を活用した一般向け情報発信

- ・上記のほか、委員会の目的に合致する活動は何でもやってみる

(委員長 井上潔)

役員選任実行委員会

当委員会は、2年に一度の役員改選が行われる通常総会の、役員選任議案で実施される議決権行使の正会員投票を円滑に進めるための事務管理を担っています。

併せて、今後のJHFのより健全な経営に寄与いただけるよう理事・監事を務めてくださる方への立候補支援活動も行っています。

次の役員改選は2023年の通常総会です。広く人脈を持ち公正な判断ができる方を求めます。

(委員長 鈴木由路)



2021年の通常総会。感染対策を徹底し役員改選を実施。

応募方法と締切日

□応募方法：応募用紙に必要事項を記入して、JHF事務局にメール(ファイル添付)、ファクス、郵便などでお送りください。応募用紙は、JHFウェブサイトのTOPICS、『JHF委員会委員を募集します[1月12日]』からダウンロードしてください(ワードファイル)。ダウンロードができない方、ワード使用不可の方は、お手数ですが、事務局にご請求ください。

□応募締切日：2022年3月7日

□選任：理事会で選任を決定

□任期：2022年4月1日～2024年3月31日

□定員：教員・スクール事業委員会と安全性委員会が6名、他は5名

□その他：委員会活動には交通費(実費)と日当(5,000円)等を支給

不明点はお気軽にJHF事務局にお問い合わせください。

TEL.03-5834-2889

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

JHFの動き

福島県浪江町での

HG体験会を後援

10月22日(金)、福島県浪江町のなみえ創成小学校で、JHF後援のハンングライダー・トーイング体験会が開かれました。小学3年生・4年生の10名が参加、滑空する楽しさを体験してもらうことができました。



みんなで機体運びながらハングの説明を聞く。



滑空体験をした小学生たちとインストラクター。

教員技能証を目指す方のための 集合研修・学科検定会

ハンンググライディング／パラグライディングの教員技能証取得を目指す方のための集合研修・学科検定会を2月26日(土)・27日(日)に東日本と西日本の2か所で開催予定です(参加の申

込は締め切りました)。

JHFでは、2017年度より教員技能証の学科検定を実技検定とは別に行っています。今回も、全国の教員のレベルを一定に保ち、教員に必要な知識や技術、心構えを学ぶこと、教員同士の横のつながりを持っていただくことを目的に、集合研修・学科検定を行います。

2022年度上級タンデム検定会 スケジュール

2019年度から上級タンデム技能証制度がスタートしました。各地で検定会を開催し226名が受検し2021年12月末現在で157名(うちハンンググライダー上級タンデム技能証11名)の方が上級タンデム技能証を取得しました。2022年度には有効期限が切れるため改めて検定の時期を迎える方も出てきます。

2022年度の上級タンデム検定スケジュールは下記を予定しています。日程が確定しましたらJHFウェブサイトでご案内します。確定後も社会状況などによって日程等を変更することがありますのでご注意ください。

- ・北海道 6月下旬
- ・東北 6月中旬(平日)、9月中旬～10月上旬(週末)
- ・朝霧 6/18-19(週末)、11/14-15(平日)、2023/1/23-24(平日)、2023/3/4-5(週末)
- ・獅子吼 6月上旬
- ・紀の川 5/28-29、12月(平日)、2023年2月(平日)

- ・九州 4/2-3、11月上旬

スクール登録、エリア・クラブ登録の 規程を改定

12月3日理事会で「JHFスクール登録規程」、「JHFエリア・クラブ登録規程」が改定されました。

スクール登録の条件は

- ・有効なJHF教員が在籍していること。
 - ・体験および教習タンデム飛行を実施するスクールでは上級タンデム証保有者が1名以上在籍していること。同一の上級タンデム証保有者が複数のスクールに登録することはできない。
 - ・JHFで定めた申請方法で情報を提供すること。
- になります。

登録有効期間は2022年4月1日から24か月で、更新制となります。

4月1日に現在ウェブサイトで公開している「JHF登録スクール一覧」を入替予定です。初回にスクール登録の手続きをしたスクールへはJHF吹流しをお送りします。登録方法をJHFウェブサイトでご確認の上、入力をお願いします。

JHFフォトコンテスト 2022年も開催

ハンンググライダーやパラグライダーの写真ができるだけ多くの人々の目に触れることにより、このスポーツの認知度が上がり、より一層の普及のために役立つと考え、JHFでは2010年からハンンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催してきました。

2022年も引き続き第9回フォトコンテストを開催します。募集期間は9月5日までの予定です。募集要綱はJHFウェブサイトのトピックスでお知らせしますので、ご確認のうえお気軽にご応募ください。



コロナ禍により2021年の競技会は多くが中止に。2022年に期待したい。(アキュラシー日本選手権より)



第8回最優秀賞「朝霧の大野城」江端昭昭さん作品

県連だより

■松山城の足下でパラ体験

愛媛県ハング・パラグライディング連盟

2021年10月31日、トーイングによるパラグライダー体験を、愛媛県スポーツレクリエーション祭のなかのひとつの行事として楽しく行うことができました。愛媛県松山市のど真ん中、松山城を望む堀之内公園での開催はアピール度120パーセントだと思いますが、



松山城が見下ろす絶好の場所でPG体験会。

5回目を迎える今回、前年に続き新型コロナウイルスの関係で一般募集を県のホームページのみで行った関係で参加者は30数名に終わりました。

現地での申し込み、問い合わせもちらほらとある中、前年度参加の方もおられました。今回は公園の中の場所を変えたおかげで直線を長めにとれていて感じで参加者の方に楽しんでいただ



家族で参加の方も多く、コロナ禍の終息が待たれる。

けました。毎年ですが家族で参加の方も多く、トーイングによる新しいパラグライダー体験の世界が広がりつつありそうです。

愛媛県連のスタッフのサポートもあり「練習？無し」でのフライト体験は完璧。十分楽しめるコンディションにも恵まれ、松山市民の憩いの場所としての堀之内公園でのパラグライダー体験は最高の場所だと感じました。

コロナが収まれば、2022年度は募集もしっかりと行い、より多くの「飛んでみたい」と思う方に楽しんでいただきたいものです。個人的には、松山城の横から飛んでのアクアレー大会ができれば最高かなと思っています。

(報告：愛媛県連理事長 山野好喜)

学連ニュース

あけましておめでとうございます。緊急事態宣言が解除されたため、2021年11月13、14日にパラグライダー新人戦を山形県南陽スカイパークにて開催することができました。今大会はコロナ禍の影響により2年ぶりの開催、また、緊急事態宣言明け直後の開催ということもあり草大会として開催しましたが、弘前大学・山形大学・福井県立大学・足尾エリアの計23名が選手として参加しました。コロナ禍にもかかわらず例年以上の参加者数となり、学生フライヤーのモチベーションの高さを実感することができたとともに、学生フライヤーの技術向上や交流の場となる学生大会の重要性を再認識しました。

パラグライダー新人戦ではテイクオフとランディングの技術精度を審査員が採点しその点数を競います。

1日目は風が強まるまでの合間を狙いフリーフライトの上級生と選手数名がフライトをしました。その後も風は弱まらず1日目は終了しました。

2日目も強風の予報となっていたため早朝から集合しましたが、強い逆転層が形成され十分一山名物の雲海が発生したため、視界が開けるまで引率教員による学科講習を行いました。

視界が開けるとすぐに競技をスタートしました。風が強まる昼過ぎまで

は、新人戦に最適なコンディションとなり、競技を2ラウンド成立することができました。フライト終了後は参加者全員でエリア清掃も行いました。

コロナ禍発生以降初の学生大会となりましたが、多くの参加者が集まりフライト技術を競い合い参加者同士で交流を深めることができました。今回参加してくれた学生が、大会や他エリアで飛ぶ楽しさを他のフライヤーに伝えることで、より学生フライヤーが活気づくことを願っています。

[上位入賞者]

- | | | |
|----|----------------|-------------|
| 1位 | 矢野富美也 (弘前大学) | 1920点/2000点 |
| 2位 | 高久 彩 (津田塾大学) | 1830点/2000点 |
| 3位 | 佐藤 清貴 (横浜国立大学) | 1810点/2000点 |

最後に、今年度も残るところあと2か月です。今年度残る大会は、例年な



新人戦は離着陸技術の精度を競う。

ら荒神山でのハング新人戦・足尾でのパラ学・龍門でのハング学生選手権ですが、残念ながらハング新人戦はランディング場付近のソーラーパネル設置により安全に競技を行うことができなくなってしまうため中止いたします。現在次の新人戦候補として明科が挙がっていますが、ホームエリアとなっている学生がいないことや大会を運営するうえで多くの問題があるため多くの時間を有すると思います。

新人戦は、多くの学生フライヤーが空を飛ぶ楽しさや魅力を再認識できる場となっているため絶対に復活させたいと考えています。インストラクターや社会人の方々にご協力をお願いすることもあると思いますがどうかその時はよろしく願います。パラ学・龍門は、現在開催することが決定しているので、学生の皆さんはエントリーの準備をしておいてください。



選手もスタッフも笑顔で競技を終えることができた。

2021年の事故状況

JHF安全性委員会 委員長 伊尾木浩二

2021年の事故状況と、より一層の注意をしていただきたいことを、フ라이어の皆様にお伝えしたいと思います。

しっかり周囲確認をして 接触事故を防ぐ

2021年の事故では、接触事故、練習生の事故が目立ちます（下表を参照）。接触事故はお互いが墜落する事故にも繋がり、レスキューパラシュートの開傘確率も減少します。いわゆる大事故に繋がるリスクが増えます。同じ空域で練習生も飛行していることを十分考慮し、周囲確認をしっかりと行ってフライトするよう心がけてください。

ドイツの連盟、DHVでは「一人あたりが周囲をしっかりと確認できるのは3機程度」と言われています。自分の技量をよく理解したうえで飛行空域の選択を行ってください。

クロスチェック・ダブルチェックで レッグベルト付け忘れを防ぐ

JHFは過去の事故を繰り返さず「防げる事故は無くす」ことを目標としています。しかし毎年のようにレッグベルト付け忘れによる事故が発生してい

ます。**必ず第三者とともにクロスチェック（ダブルチェック）を実施してください。**



ほかのパイロット（第三者）が全員飛び立ち最後にフライトされる方は、無線機を使って地上側とクロスチェックを行うことがあります。レッグベルトを付け忘れ、セルフチェックをしないまま、無線で『チェックOK』と言ってテイクオフし、死亡事故になってしまったケースがあります。最後に飛べれる方はよりしっかりとご自身でダブルチェックを行いフライトするようにしましょう。チェック5タグもご活用ください。

レスキューパラシュートを 引き出しチェック

最近のクロスレスキューパラシュート（丸形ではなく四角、多角形タイプ）は開傘の時間が早いという特徴があります。そのため、ハーネスからレスキューを取り出した時にブライダルコードを含めて、ある程度の長さ（約80～120cm）を確保する必要性があり

ます。もしも、余裕のない長さの場合には、引きだした瞬間に開傘し自分の体などに絡みつくりリスクが増えます。インストラクターの指導下でレスキューパラシュートの取り出し方、ハーネスの特徴などを再確認しましょう。



レスキューリパックタグ 有効期限付きへ変更

レスキューパラシュートリパックタグが新しくなりました。新しいタグには有効期限の記入欄があります。JHFとしてはパラシュートメーカーの推奨するリパック間隔、また最大でも6か月でリパックすることを推奨しています。リパックは定期的にしっかりと実施しましょう。



2021年の事故

					練習生	怪我状況
1	1月	静岡県	PG & PG	接触事故 2名とも無傷	1名	2名無傷
2	2月	茨城県	PG	XC時にランディングアプローチで電柱にキャノピーをひっかける		無傷
3	3月	茨城県	PG	タンデム 下降気流により無理に攻めずにツリーランディング		無傷
4	3月	静岡県	PG	レッグベルト付け忘れ（クロスチェックできていない）		死亡
5	4月	茨城県	HG	タンデム事故		2名重傷
6	4月	岐阜県	PG	潰れによる墜落		重傷
7	4月	和歌山県	PG	潰れによる墜落と思われる		死亡
8	4月	千葉県	MPG	TV放映タンデム時のカラビナ接続問題（SNS炎上）		無傷
9	5月	和歌山県	HG	ランディングアプローチミス		重傷
10	5月	茨城県	PG	B級スクール生、地上練習中に飛ばされて頭部骨折	1名	重傷
11	7月	北海道	PG	A級斜面練習10本経験 事故当日1本目ハードランディング	1名	重傷
12	8月	福岡県	PG	NP証ビジターフライト 高度処理急旋回失速		重傷
13	9月	茨城県	PG & HG	PG & HG空中衝突 NP証とB級生（講習斜面30本経験）	1名	2名軽傷
14	10月	青森県	PG	練習ショートフライト中の事故	1名	重傷
15	10月	岐阜県	PG	アキュラシー競技中の失速墜落		重傷
16	11月	福岡県	MPG	離陸時、右翼を木に引っかけて墜落		重傷
17	11月	茨城県	PG & PG	PG同士接触、1名は練習生で墜落しツリーランディング	1名	1名軽傷

32か国、129人（うち女子31人）の選手が参加、9日間の会期で4日間競技を行い、世界選手権成立ミニマムの3ラウンド成立。日本選手は岡芳樹、古賀光晴、山口香代の3人。

大会会場のPrilepは北マケドニアの首都スコピエの南約70kmに位置する。ローカルルールに記載された山エリア、メッキンカメンとトレスカヴィッチは全く使用されず、一昨年、XC世界選手権で使用されたクルシェヴォエリア近くの名もない低高度のエリアとトーイング用のマロコンヤリ・スポーツエアフィールドが使用された。

雨の開幕／強豪がMAXスコア

本戦の1年前に開催するはずのプレ大会がコロナのため開催できず、代わりとなる3日間の公式トレーニングデイは、参加者が少ないとの理由でキャンセル。2日間の非公式トレーニングデイは天気も良く、クルシェヴォのメインテイクオフから1日中練習できた。

しかし本戦の競技が始まると、3日連続で雨のためキャンセルに。4日目にして、何とか雨の合間を縫う形で第1ラウンドがスタート。場所は急遽設定されたクルシェヴォの低高度エリア。風は弱めで時折雨がぱらついたり、青空がのぞいたりするコンディション。当然サーマルは無い。何とか46名が飛んだところで雨脚が強まり、本日はそれまでとなる。

世界選手権となると選手のレベル差が大きく、結構な数の選手がMAXスコアをたたく（今回はターゲットが半径2mなので、スコアとしては200点）。それでも世界トップクラスの選手は当然のごとくシングルスコア。その中で、世界ランカーで世界記録保持者のスロベニアのマティアス・スルーガが何とMAXスコアをたたくという番狂わせが。日本チームは古賀選手だけが飛んで、40cm。

5日目、午後からトーイングでできそうということで、昼前に移動開始。曇りベースで、3m/s以下の風。始めのうちは風向が変化するが後半はほぼ

一定となり、絶好のコンディションで新しい第2ラウンドがスタート（フライトエリアを変更すると、途中まで終了したラウンドはいったんサスペンドとなり、新しいラウンドを最初からスタートするルールによる）。

この大会でのトーイングは、これまで行われてきたスタティックトー（ウインチが固定されていて、伸ばしたラインを巻き上げるタイプ）とペイアウトトー（ウインチが車載されていて、車が走りながらラインを伸ばしてゆくタイプ）の両方が使用された。我々はペイアウトトーになじみがなかったが、全く問題なくテイクオフすることができた。

絶好のコンディション下、トップレベル選手は軒並みシングルスコアで、0cmも4人。しかし、このラウンドもセルビアの第1人者であるゴラン・デュルコヴィッチがMAXをたたいてしまった。日本チームは、古賀15cm、山口MAX、岡11cm。日没まで時間があるので、引き続き第3ラウンドがスタート。コンディションは微風のサーマルなしと絶好。30番までの選手が飛んだところで時間切れに。日本チームでは古賀選手のみが飛んで、出ました！ 0cm。

3ラウンドでギリギリ成立

6日目、1日中雨がなさそうとのことで早朝からスタート。曇りベースで微風の好コンディションだが、時折風向が変わるので、タイミングが悪いと風に合わせるのに気を遣う。昨日の残

りからスタートし、昼前に第3ラウンドが終了。日本チームは、古賀0cm、山口16cm、岡16cm。

引き続き第4ラウンドがスタート。始めのうちは曇りベースで3m/s以下の絶好のコンディションであったが、ラウンドが進むにつれ、時折日がさして風速がアップし、ショートする選手が多数出るようになる。リミットの6m/sを超えることが多くなり、風向と風速の変化によりトーイングのスタート地点を移動する等しているうちに雨が降り始め、20人ほどの選手を残してラウンド中断となる。日本チームは、古賀MAX、山口MAX、岡16cm。

7日目、8日目は雨で競技キャンセル。これで、未完のラウンドが2本（1本は山からで残った選手は83名、もう1本はトーイングで残った選手は20数名）。成立したラウンドが2本となり、残った競技日は、最終日の1日のみ。エリアの状況（雨が降り続いたので地面の状況が悪い、風向・風速と雲底）を総合的に判断してどちらのエリアを使用するかが焦点となる。

そして、9日目。総合的に判断して決まったエリアはトーイングエリア。これで、山の1本で失敗したマティアス・スルーガは救われ、トーイングエリアで失敗したゴラン・デュルコヴィッチは、表彰台の目がなくなること。第4ラウンドが中断となっているため、ターゲットを移動することはリスクと判断し（前述したようにターゲットを移動すると、そのラウンドは中断となって、新しいラウンドを最初



日本チーム。左から岡、山口、古賀各選手。トーイングはスタティックトーとペイアウトトーが採用された。



肩を組んで念を送る(?) チェコチーム。国別2位となった。

からスタートすることになる)、ターゲットエリアからポンプで排水をし、おがくずを撒いて整備して何とか競技ができるように仕上げて、11時前から第4ラウンドのリランチと残りの選手からスタートする。

曇りベースの微風。サーマルなしと絶好のコンディション。一時、コロンビアの選手がターゲットで足を滑らせ負傷したため中断となるが、前日のチームリーダーブリーフィングで決定された「最終日には13時以降新しいラウンドをスタートしない」にぎりぎりとなる12時47分に第4ラウンドが終了し、すぐに第5ラウンドをスタートする。これで、3ラウンドが成立し、今回の世界選手権は成立することになる。

この時点で、トップの選手以外は、何としても第4ラウンドを成立させたいと思いスムーズな進行を期待するが、13時過ぎに、ランディング間際で

ストールに入れた選手がリカバーしながらターゲットジャッジに衝突し、ジャッジが負傷して救急車で運ばれるアクシデントが発生。そこで、競技委員長は主な役員を集め協議した後、「最終ラウンドということもあって役員、選手双方に大きなプレッシャーがかかり、事故の原因にもなっている。またターゲット状況は悪くなる一方で、何とか追加の整備をしながら凌いでいるが、このままでは本日終了時刻までに第4ラウンドを終了することができないとの判断の両方から、本日の競技はここまでとなる。また、上位3人の中でタイスコアの選手がいるが、タイブレイクのフライトは行わず、S7Cの規定によってタイブレイクする」と発表された。その判断にいくつかの意見がチームリーダーから出されたが、特に強硬に反対する者がいなかったため、それが最終決定となっ

た。残念ながら仕方ないと帰途につくころ、図ったように雨が降り始めたのには驚いた。

なお期間中、コンプレインが数件(大部分はトーイングで早めにリリースしたり、強風を判断ミスしたりして、ターゲットにとどかなかったもの)、プロテストが2件(1件はトーイングで早めにリリースしてターゲットにとどかなかったもので国際陪審員は否決。もう1件は韓国からの着地までの30秒間の風速がリミットを超えていた疑惑に対するもので国際陪審員は受諾)提出された。

最後に、改めて、世界のレベル、並びに選手層の厚さを思い知らされました。また、不甲斐ない結果でしたが、サポートしていただいたJHFおよび応援をいただいた皆様に感謝し、さらに精進して良い結果を今後の大会で残せるように努力したいと思います。

[個人総合]

1位 スンギル・アン 大韓民国
2位 ヴラスティミル・ヴァシュテル
チェコ

3位 ダギョン・リー 大韓民国
39位：岡 82位：古賀 111位：山口
[女子]

1位 ダギョン・リー 大韓民国
2位 マルケッタ・トマシコヴァ
チェコ

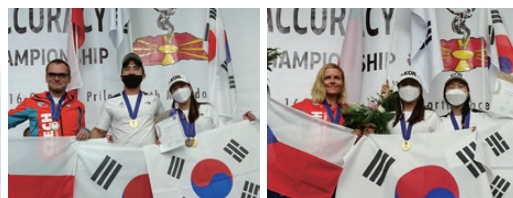
3位：ウンヨン・チョー 大韓民国
22位：山口

[国別]

1位 大韓民国
2位 チェコ
3位 スロベニア
20位 日本



シングルスコア続出。第4ラウンドの成立を期待したが、叶わなかった。



総合トップ3。

女子トップ3。



国別でも韓国がトップ。三冠に輝いた。

開催が急遽決定、フランス独走もイギリスが逆転！

2021年10月31日-11月13日 アルゼンチン Tucumán 報告：チームリーダー 長島 信一

世界情勢がコロナ禍で大きく揺れ動く中、第17回FAIフランス世界選手権は2年延期が決定した。参加予定選手たちの落胆は大きなものだったが、2年後に向けて再スタートを切ったのであった。

ところが、4月に入るとアルゼンチン Tucumánのオーガナイザーから世界選手権を開催したいと申し出があり、FAIが急遽承認し、11月の大会開催が決まった。しかし、コロナ情勢により最終決断は7月になるという条件付きだ。7月になると国内の情勢は悪化の一途、はたして出国ができるのか。大会主催者が最終的に国の許可を得たのは8月末、しかしながら外国人入国は禁止のまま、スポーツ特待枠での入国になると連絡がきたが不確定だ。

参加選手の廣川靖晃、成山基義、岩崎拓夫、小林大晃、平木啓子、成山奈緒には準備を進めるように伝えるが、現実味が薄い状態が続く。本来なら新機で臨むところであるが、メーカーの工場自体が稼働不足でオーダーしても目処が立たない。

最終的に入国許可が出たのは10月に入ってから、ビザが降りたのは出発の2週間前だ。慌ただしい日々を過ごしながらも密な連絡を取り、全員がアルゼンチンの地を踏めることを願って出発の時を迎えた。50時間ほど掛かってTucumán到着、真夏の南半球へ無事にやってきた。

Tucumánエリアは、前評判では雲底が低くサーマルも弱く日本のエリアに似ていると言われていた。しかし、練習日にその期待は見事に裏切られた。



広いテイクオフに立つ日本チーム。

サーマルはプラス5を振り切り雲底は2500、練習タスクのゴールに降りようにもリフトが強くて降りられない、と。

2日間の練習日で時差にも慣れてきて調子が上がってきたところ、受付日になった途端に気温は急転直下で雨も降り出す。本部でもフリースがないといられない。数日は寒さが続く予報となる。

開会式はなく、パレードと屋外でのパーティ、雨の合間をぬっての開催だ。

大会初日 Task 1

テイクオフ1200mが雲底で北風予報の中を60km南下するタスクが組まれる。テイクオフは一度に10機は広げられる広さで、150機がスタートするのに40分ほど。スタート時には低い雲底の下に150機がひしめき合う密な状態だ。

一斉にスタートした集団は北風に乗って順調に進んで行かない、ライブトラッカーで見てもスピードが上がらずに徐々に集団はばらけてくる。先行して先の風状況を伝えるが、北風はな

く南風が吹いている、集団が進まないはずである。

向かい風の状況になると機体の新旧による性能差が顕著に出てくる。参加機体の8割がシリアルクラスのENZO3なのだが、同一高度からスタートしても徐々に差が開いてしまい、サーマルを乗り継ぐ間に大きな差になってしまうのだ。ファクトリーチームとフランスチームは新機を揃えて臨んでいるから優位性は否めない。

距離伸ばしとなり先頭集団にいた廣川が40kmほどで降りた後、第二集団にいた小林がきっちり最後のサーマルを上げ切り11位と世界選初参戦ながら好位置につける。平木、成山奈緒も近くまできている。

Task 2

タスクはスタートするが強風のためにキャンセル。

Task 3

南風予報の中を70km北へ向かう設



テイクオフ上空にひしめき合いスタートを待つ。



大健闘の成山奈緒(左)と小林大晃。

定。いつものように低めの雲底から山を離れて平野を進むが地上付近は強風予報。できるだけ高度を保って集団で移動と打ち合わせる。フォローの中を集団は70-80km/hとハイスピードで展開する、低くなった機体は上げ直せずに降りていく。ファイナルグライドは15km以上手前からスタート、ゴールで待ち受けているとゴールライン1mでカットする選手や、手前の有刺鉄線で辛くも降りる選手と、ドラマが待ち受けている。

集団で順調にゴールしたのは小林、絶好調である。続いて成山奈緒が見事にゴール、ただし成山奈緒はチーム外の参加なのでチーム得点に入らず順位は下がってしまう。

Task 4-7

Task 4 から7まで、雲底は相変わらず低くスタートして平野部へ出るタスクが続く。好調なOzoneチームが上位に揃い、フランスチームがダントツ



総合入賞者。



女子入賞者。成山奈緒が5位に。



国別トップ3。イギリスが世界一の座に。

と思われたがCTR(管制圏)侵入で痛恨のペナルティ、イギリスチームが逃げ切った形となった。

日本チームは小林、成山奈緒が最後

までゴールを重ねて好調をキープ。個人では小林が総合25位、成山奈緒が女子5位と大健闘、チームは17位という結果となった。

大会自体の開催が危ぶまれる中、日本チームは一致協力して大会に臨み得るものが多い結果となった。次回のフランス大会に向けてレースは始まっている。日本チームの健闘をご期待ください。

[総合]

- 1位 Russel Ogden
イギリス 3852.9点
- 2位 Honorin Hamard
フランス 3818.9点
- 3位 Luc Armant
フランス 3813.6点

小林25位 成山奈緒51位 平木109位
廣川113位 成山123位 岩崎132位

[女子]

- 1位 Yael Margelisch
スイス 3699.1点
- 2位 Seiko Fukuoka
フランス 3650.8点
- 3位 Klaudia Bulgakow
ポーランド 3583.4点

成山奈緒5位 平木12位

[国別]

- 1位 イギリス 10092.4点
- 2位 スイス 9962.7点
- 3位 チェコ 9864.5点
- 17位 日本 8273.9点

2021パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI

和田、岡、齊藤、三つ巴の優勝争いは……

2021年11月27日-28日 静岡県富士宮市朝霧高原 報告:スコアラ―/PG競技委員 鈴木 洋史

2021年11月27日・28日、朝霧高原エリアでアキュラシー日本選手権が開催され全国から46選手が集まった。

Day 1

天気、風共に穏やかな朝を迎えたが、次第に寒気が強まり北風強風になる予報。何とかその前にラウンドを進めようと定刻通りにテイクオフへ移動、ダミーのフライトを確認しゲートオープンとなった。

序盤の選手は、比較的安定したコンディションの中スタート、和田、齊藤選手はいきなり一桁前半のスコアを記

録、しかし10番以降からサーマルコンディションが強まる難しい展開に。そんな状況で、岡選手がランディングスタッフ・選手も唸るような絶妙なグライダーコントロールを見せ、渾身の0パッドを記録する。

23名がフライトしたところで本格的に北風が入り始め、12時までウェイティングをしたが風は強まる一方で、この日は1R(ラウンド)の半分を残しての無念の下山となった。

解散後、筆者や選手数名は2日目の天候回復と安全を祈願するために富士宮の「浅間大社」へ。

Day 2

前日に比べると寒気が次第に弱まり北風は弱まる予報。朝風のコンディションの中スタートするも、7名がフライトしたところで急に強風が入り、空中にいた2名は赤旗が出されリフライトとなる。その後、ダミー、フリーフライトからのレポートでは風が強く競技性がないとの見解からウェイティングが続く。

状況が好転したのは12時前。今度は急に北風が弱まり始めたので、すぐにダミーを出し競技を再開。1R終了して一息ついたのも束の間、次は日本選



難しいコンディションのなか、ゼロスコアを狙う。



R3の岡選手。和田選手を逆転したかったが……。

手権成立の条件となる3Rの成立を目指すこととなった。

2Rはやはり日中の風の変わり目で難しいコンディションとなった。46人中パッドスコアはたったの5名。1R上位の和田、岡、齊藤の3選手が続けて安定した成績を残す。

この日は試験的な試みで、選手たちがWEB上でスコアを見られるようにしていたため、すぐにテイクオフ順のソートを行い、最終ラウンドの3Rを開始。

3Rはサーマルも弱まり安定したコンディションに。盛、塚原選手の2名がこの大会3回目の0スコアを出すなど、12名がパッドスコア。和田、岡、齊藤、3選手の優勝争いへ。

ここで齊藤選手が痛恨の124cm。続く岡選手はパッドスコアの12cmを出し、本人は少々ご不満の様子であったが2位以上が確定。全員が見守る中、和田選手は3cmを出し、1位が確定。競技クローズ16:00の14分前、15:46の日本選手権成立であった。

男子は和田浩二選手が、女子は大西一枝選手が「日本選手権者」の座に輝いた。

2021シーズンは新型コロナの影響もありアキュラシーリーグの成立が1戦だけと厳しいシーズンとなったが、2022年は賑やかなシーズンとなって欲しい。

[スクラッチクラス総合]

1位	和田 浩二	静岡	17点
2位	岡 芳樹	東京	22点
3位	森山 拓	大阪	77点
4位	齊藤 光秋	千葉	139点
5位	大西 一枝	兵庫	278点
6位	吉原 薫	栃木	286点

[スクラッチ女子]

1位	大西 一枝	兵庫	278点
----	-------	----	------

2位	高橋 美佳	埼玉	1279点
3位	山口 香代	東京	1297点
[ハンディキャップクラス]			
1位	森山 拓	大阪	1点
2位	齊藤 光秋	千葉	2点
3位	和田 浩二	静岡	4点
3位	岡 芳樹	東京	4点

[学生クラス]

1位	山澤 新太	東京	2014点
2位	内野 僚太	埼玉	2372点
3位	落合 南	東京	2696点

[チーム]

1位	スカイ朝霧	5点
2位	ぴよぴよ	9点
3位	Chuuしちゃダメ。	29点
3位	エキストラ	29点

日本選手権者から

和田 浩二

微妙な風予報で成立が危ぶまれた日本選手権でしたが成立、そして優勝できてとても嬉しいです。

最終ラウンド、テイクオフ順がソートされ直前までの成績の逆順にテイクオフしていきます。時間とともに自分の順番が近づいてきますが、この待ち時間が嫌いです。2位の岡さんと3cm差で暫定トップだった自分が最後のフライトになるわけですが、最後のフライトは緊張感が強すぎて過去に何度もミスをしているので、かなり苦手ですし重圧を強く感じ胃が痛くなる思いです。

途中、このまま風が悪くなって競技が中断されて不成立で終わってくれば良いのにとか思いました。でも、今回の大会に優勝するために色々準備をしてきました。朝霧特有の変化の激しいコンディションや競技時間の長さか

らくる日射角やサーマルの変化、夕方には太陽が山に隠れて一気に暗くなる明暗の変化も気にして飛び方や機材を調整してきました。最後のアプローチで少し慌ててミスをしましたがギリギリ優勝できて良かったです。ありがとうございました。

大西 一枝

なんにもわからない状態でアキュラシー大会デビューし、たくさんの方にお世話になりました。大会に参加する際の要領を一から教えてくださった方、機体の相談に応じてくださった方、動画を見て指導してくださった方、また普段のフライト仲間に感謝いたします。

学んだ事も沢山ありました。その中で自分にとって一番大事だと思ったのは、「安全第一」です。よほど「安全」を頭に刻んでおかないと、普段やらないミスを犯してしまいます。実際に一歩間違えれば怪我しかねない場面も何度かありました。浅い経験の中で日本選手権者証をいただいたのは何かの間違いではないかと思ってしまうのですが、これを励みに練習を続け、一度は真ん中を踏んでみたいです。あのゼロステッカーが欲しいです！



日本選手権者、和田浩二選手と大西一枝選手。

渋いコンディションの中、板垣が粘り勝ち

2021年11月20日-23日 茨城県石岡市足尾山ハンググライダーエリア 報告：大会実行委員長 板垣 直樹

春に予定していたClass V 日本選手権は新型コロナの影響で延期となり、11月後半の渋いコンディションの中で開催となった。

初日 11月20日 (土)

西から移動性高気圧が張り出し高気圧圏内で晴天となる。気温減率も良く好条件。タスクは、筑波山でスタートして北上、雨引近くの羽田山をとって西に、鬼怒川の中島橋の後は利根川の利根川橋をとって向原ゴールの68km。

スタート前は雲底1600mと絶好の条件だったがスタート直後に海風が入り一気に雲底が1000m以下まで下がってしまう。筑波スタートを切った後の激渋でそのまま降りる選手も出たが、まっすぐ西に向かった岩崎がトップを走る展開でレースが始まった。

その後を加波山から追いかける選手にとって、鬼怒川までの平地サーマルは良かったが、ゴール方向から曇りの空域が広がり行く手を阻む事になる。

日照が無くなった中でも粘って上げる選手たち。板垣が完全に曇った空域で最後まで粘ったがゴールならず。64km飛び、この日のトップとなった。2位にはベテランの松田、3位に岩崎と続いた。

2日目 11月21日 (日)

東に抜けた高気圧で午前中は晴れ間があったが、午後には曇り、日照がなくなる。減率が悪く、日照もない中で何とか競技を行ったが大半の選手が上げられずランディングした。何人か上げてスタートを切ったがミニマム距離を超える選手がいなかったために競技不成立となった。

3日目 11月22日 (月)

寒冷前線が通過し一日中雨のため、競技キャンセル。

4日目 11月23日 (火/祝)

北海道東の沖にある低気圧の影響で西高東低になるが晴天にならず、雲が多いが午後から寒気の流入により減率が良くなった。タスクは、テイクオフ

の山沿いを二往復した後に東の常陸太田ゴールの63km。

前日の雨の影響が大きく渋いコンディションで、さらに雲が多く日照も弱かった。しかし午後から徐々に上空に入り込んだ寒気の影響でサーマルは弱いながらも上がり始めた。

最初にテイクオフした穴戸が上げ競技が始まるが、その後は上がらずに降りる選手が多かった。穴戸、板垣、古坂、富原が日照の無くなる中でしぶとく粘り生き残った。

上空の寒気の影響から加波山のリッジがトリガーで弱いが大いさサーマルが発生したので山の往復ができた。トップでゴールに向かう板垣はゴルフ場で少し上げて距離を延ばすが、完全に曇った中、ゴールできず。そのあと加波山で1400mまでしっかりと上げた古坂がワングライドで板垣を400m越えて42km飛び、この日のトップとなった。

初日が一番のコンディション、68kmのタスクを組むがゴール者は出ず。最終日もトップは42km飛ぶがゴール者が出ず。大会を通じて一人のゴール者も出ないまま日本選手権が成立した。その中でも優勝した板垣と2位の古坂の二人が安定した強さを見せた。また、松田も3位入賞しベテランの強さを発揮した。

コロナ感染者が全国的に減少したタイミングだったので、ウエルカムパーティも行いうことができた。また、平均年齢が高いClass Vだが、若手選手も新たに参加し、今後に繋がる大会となった。

コロナ禍にも関わらず開催に尽力し

てくれた関係各位に改めてお礼を申し上げます。

1位	板垣 直樹	茨 城	1461点
2位	古坂 学俊	茨 城	1375点
3位	松田 隆至	東 京	1060点
4位	穴戸 俊之	茨 城	1041点
5位	岩崎 正芳	群 馬	1021点
6位	岡田 伸弘	静 岡	956点

日本選手権者から

板垣 直樹

前年の日選ではタスクの入力ミスで初日に大きく後れをとり、そのまま優勝を逃した。もう日本選手権で優勝はできないのでは？と思う事もある中でゴール者の出ない初日にタスクでトップを取れたのは大きな自信となった。

最近は飛ぶ機会が減っていたが今回はしっかり練習し日選に臨んだ。練習を重ね、鈍っていた感覚も徐々に戻り、日頃からのフライトの重要性を改めて思い知った。

58才になり、これから飛躍的な伸びしろが無い事は重々承知しているが、それでも意識と練習次第では、ほんの少しかもしれないが上達する可能性も感じた。機体性能の進化は止まる事を知らない。Class V、Atosを常に乗りこなす気力体力、そして技術を己のものにするため今後も研鑽を積んでいきたい。

大会に初参戦してくれた選手も含め、参加全選手と大会開催に協力いただいた関係各位、本当にありがとうございました。

次回の日本選手権、そして世界選手権も優勝できるように頑張るぞー！



参加選手たち。後列左から古坂学俊、板垣直樹、松田隆至各選手。

2021年のトップランカーは……

2021年の競技を振り返って

パラグライディング (PG) とハンググライディング (HG) の両競技委員会が運営するJHF競技リーグは、1月1日から12月31日までをシーズンとして年間ランキングを決定しています。続くコロナ禍により大会数が少なかった2021年ですが、熱い競い合いが展開されました。

PG ジャパンリーグ

[総合]

1位	多賀 純一	神奈川	2672.1
2位	上山 太郎	大阪	2661.9
3位	成山 基義	大阪	2642.1
4位	岩崎 拓夫	京都	2617.4
5位	阿知波広和	愛知	2528.4
6位	平木 啓子	静岡	2517.1

[総合女子]

1位	平木 啓子	静岡	2517.1
2位	山下 敦子	兵庫	2452.4
3位	中目みどり	東京	2345.4

[スポーツクラス]

1位	阿知波広和	愛知	2402.8
2位	長島 信一	石川	1819.6
3位	四方 純	大阪	1627.0
4位	森田 賢	京都	1443.0
5位	北村 和之	兵庫	1425.7
6位	中川 喜昭	茨城	1403.0

[2020-2021日本代表選抜]

1位	廣川 靖晃	静岡	254.90
2位	成山 基義	大阪	221.05
3位	平木 啓子	静岡	194.10
4位	岩崎 拓夫	京都	189.05
5位	多賀 純一	神奈川	184.55
6位	荒井 大悟	千葉	169.40

[国際ポイント]

1位	廣川 靖晃	静岡	169.7
2位	成山 基義	大阪	162.3
3位	多賀 純一	神奈川	152.5
4位	文字 英彰	埼玉	148.9
5位	平木 啓子	静岡	144.5
6位	荒井 大悟	千葉	143.3



総合1位
多賀 純一

前年に続き成立大会が少ないなか、180kmタスクとXC記録更新に沸いた

初戦の足尾、私は60km程で降ってしまい膝を抱えていました…

この大会の悔しさと、2022年から20名になるシード枠に残りたい気持ちからバネになり、メンタルトレーニング、リフレクションなどできる事は行い、準備万端で秋のシーズンを迎えました。足尾は好成績で次へつなぎ、尾神では手堅く飛んだもののDQが低く、残念ながらポイントは稼げず、最終戦の朝霧で優勝！ シード係数が高かった事もあり、思いがけず年間リーグ優勝までいただき、記憶と記録に残る一年になりました。コロナ禍のもとでご尽力いただいた大会関係者の皆様に感謝いたします！



総合女子1位
平木 啓子

2021年後半は、世界選も含めていいとこなしの成績が続きました。地元朝霧でのJリーグ最終戦は惨敗。それなのに女子1位になれたとは、前半戦の頑張りが効いたようですね。複雑な気持ちです。1年間戦って勝者になった！という喜びよりは、来年こそは頑張るぞ！という敗北からの挑戦者の気持ちが大きいです。

ここ2年、海外遠征にも行けてなくて、競技用グライダーでのフライト時間が少なく練習不足は明らかです。2022年はもっともっと飛んで大会にもたくさん出て、運に頼らず勝ち抜ける技量を身につけたいと思います。

応援してくださいました皆様、ありがとうございました。またコロナ禍の大変な状況の中、大会を開催してくださいました関係者の皆様、ありがとうございました。2022年は、いい年になることを切に願います。



スポーツクラス1位
阿知波 広和

まずは、このコロナ禍において大会を開催していただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

2021年は「スポーツクラスのグライ

ダーで総合の表彰台に立ちたい」という思いで出場しましたが無理でした。調子よく飛んでいてもやはり百戦錬磨の強豪が乗るオープンクラスのグライダーには一歩遅れてしまいました。しかし、スポーツクラスで総合10位相当のポイントが獲得でき、オープンクラスでの成績も含めて5位でシード権を獲得できました。このことは、これからもスポーツクラスで出場する選手の皆さんには目標になるのではないかと個人的には思っています。

2022年は、コロナ禍が収束し多くの大会が開催されるよう願うとともに総合でさらに上位を目指してまいります。

PG ジャパン2リーグ

[総合]

1位	齊藤 光秋	千葉	1740
2位	盛 龍一郎	埼玉	1720
3位	齋藤小百合	神奈川	1697
4位	中里 勝	栃木	1676
5位	熊谷 勝秀	愛知	1655
6位	棚本 和之	東京	1577

[女子]

1位	齋藤小百合	神奈川	1697
2位	鈴木 彩	東京	1267
3位	坂本 智春	埼玉	1116

[チーム]

1位	ソラ&ドロシー	11
2位	Airkassy	6
3位	YUPC	5



総合1位
齊藤 光秋

聞いた時にはびっくり、まさか……年間チャンピオン？ 自分でもびっくりの結果を残すことができ、大変うれしく思います。

最終戦の朝霧は西風強風の中、心が折れそうになりながらのフルアクセル、記憶に残る一本でした。

常日頃から必ずテーマを決めて飛んでいます。毎回、大会に出るたびに課題や反省点がいっぱい見つかります。

なかなか思うようにいかないのが、面白いところ。これから安全第一、ハッピーランディングで楽しめます。

最後に、大会主催者及び、運営関係者の皆様、ありがとうございます。これからよろしくお願いいたします。



女子 1 位
齋藤 小百合

まずは、コロナ禍での大会開催、ありがとうございます。

思えば2016年にパラを始めて6年、色々な場所や人に出会いたく、2019年からJ2初参戦。今回の私の成績は自分の力だけでなく絶対何かある。特に最近のJ2人気でセレクション大会になり参加できた事、天候が味方になりフライトできた事etc

これからも共に飛び・共に笑い・チャレンジし・いい事も大変なことも体感共感実感できるこのスカイスポーツの繁栄を祈っています。

どこかの空でまたお逢いできたら、気軽に声をかけてください。本当にありがとうございました。

PG アクセラシーリーグ

[スクラッチクラス総合]

1 位	和田 浩二	静岡	59.9
2 位	岡 芳樹	東京	51.1
3 位	森山 拓	大阪	47.5
4 位	齊藤 光秋	千葉	44.7
5 位	大西 一枝	兵庫	42.4
6 位	吉原 薫	栃木	40.3

[スクラッチクラス女子]

1 位	大西 一枝	兵庫	42.4
2 位	高橋 美佳	埼玉	24.9
3 位	山口 香代	東京	22.8

[ハンディキャップクラス総合]

1 位	森山 拓	大阪	59.9
2 位	齊藤 光秋	千葉	51.1
3 位	和田 浩二	静岡	47.5
3 位	岡 芳樹	東京	47.5
5 位	大西 一枝	兵庫	42.4
6 位	加賀山 務	静岡	40.3

[ハンディキャップクラス女子]

1 位	大西 一枝	兵庫	42.4
2 位	奥村 絢	茨城	29.6
3 位	青木あや子	千葉	28.3

[チーム]

1 位	スカイ朝霧	10
2 位	びよびよ	7
3 位	Chuuしちゃダメ。	5

3 位 エキストラ 5

(アクセラシーリーグは日本選手権のみの成立であったため、勝者コメントを割愛します。P10~11の日本選手権報告をご覧ください。)

HG シリーズ

[総合]

1 位	名草 慧	大阪	931
2 位	大門 浩二	茨城	905
3 位	外村 仁克	大阪	889
4 位	鈴木 由路	東京	880
5 位	野尻 知里	茨城	824
6 位	氏家 良彦	兵庫	812

[女子]

1 位	野尻 知里	茨城	824
2 位	櫻井さやか	栃木	527
3 位	内田 秀子	茨城	452



総合 1 位
名草 慧

2年連続でシリーズランキング1位になることができ、大変嬉しく思っています。ただ2021年は前年以上にコロナによる影響が大きく、日本選手権の

2021年パラグライディングJ, J2, AJリーグを振り返って

【Jリーグ】

2021年度は7大会がスケジュールアップされたが、コロナの影響で日本選手権を含む3大会が中止となった。開催にこぎつけたすべての大会で、DQが0.6以上のタスクが1本成立し、大会数が少ないなりに何とか、それなりに意味のある年間ランキングが残せたのは幸いであった。また、近年少しずつ若い選手の参加が増えてはいるが、もっと増えることを期待している。その観点から、2021年の世界選手権の日本選抜チームの若い選手が活躍

したことは、良い刺激になるのではと思う。

【J2リーグ】

コロナの影響で、スケジュールアップされたのはたったの2大会であった。そのためか、あるいはJリーグ大会も中止となった大会が多かったせいか、Jリーガーも多く参加し、初めてセレクションをしなければならないほど活況を呈した。2022年はより多くの大会がスケジュールされ、活況を見せてくれれば競技人口の底上げに資するのではと期待している。

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

【アクセラシーリーグ】

こちらも6大会がスケジュールアップされたが、4大会がコロナのため中止となった。残りの1大会は不成立となり、最終戦の日本選手権のみが3ラウンド成立となり、かろうじて日本選手権としても成立することができた。リーグとしては低調で残念な結果となってしまったが、中止になってしまったものの新しいエリアが大会開催地となってくれたことは、今後に期待が持てるものと言える。

2021年ハンググライディングシリーズを振り返って

2021年度のハンググライディングシリーズは当初5大会が予定されていたが、コロナウイルスの影響で4大会が中止となり、開催されたのは10月の日本選手権(茨城県足尾エリア)のみとなってしまった。

その足尾の大会でもゴールタスクとなったのは1本のみで、実質その1本

で2021年度のランキングと次回の世界選手権代表が決まることとなる、過去に例をみない展開となった。

そのような状況においても2年続けてランキングトップを獲得した名草選手の活躍は、他の追従を許さない圧倒的な勢いを感じさせる。ハング界を引っ張る存在として、今後の更なる活

ハンググライディング競技委員長 牟田 園 明

躍に期待したい。

そして2022年度はすべての大会が開催され、競技の世界に再び選手の笑顔が戻ってくることを祈っている。

この2年間で競技から足が遠のいてしまった選手の方々、大会でお待ちしています。

一度しか大会が行われませんでした。そのため、まだまだ実力通りというよりも運にも味方されたものだと思います。

その日本選手権では、これまで私が苦手としていた渋い条件下でトップゴールすることができ、今まで意識して練習していたことが間違っていなかったんだと、自信に繋がるフライトができました。しかし、世界でトップを獲るためにはまだまだ課題があるので、1本1本集中して弛まず練習を続けていきます。

最後に、この大変な状況下で大会を

運営・準備してくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。



女子1位
野尻 知里

コロナ禍の中、大会を運営してくれるスタッフの皆様、一緒に飛んでくれる選手の皆様、いつも本当にありがとうございます。2021年は緊急事態宣言もあり、大会は10月の足尾のEJCのみ、計上は1本のみ。道中の仲間恵まれてゴールにたどり着いたことが、

今回の好成績につながりました。

コロナで鬱屈した日常は、飛んで忘れてしまおう。私たちには機体というソーシャルディスタンスがある。雲は刻々と形を変え、空は果てしなく続いている。人間はちっぽけだなー、と感じる。特に大会の数日間だけはもうずっと全部忘れて、風と雲のことだけ考える。それはとても贅沢な時間で、かけがえのないもの。空を舞台に仲間たちと遊ぶ、大会への参加・復帰をお待ちしています。

【速報】 ハンググライダー日本選手権、3年ぶり成立

2022年1月8日から10日まで、静岡県朝霧高原西富士エリアで、ハンググライダー日本選手権2022 in 朝霧／2022 Nishifujiを開催。天候に恵まれて、3日間ともタスクが成立し、充実した大会となりました。

タスク1、タスク2は渋めのコンディションながら、両日とも7人がゴール。最終日は得点差が少ない中で、17人がゴール。3年ぶりに日本選手権者が決定しました。

今大会のハイライトとしては、学生の松永選手が最終日に2位、総合3位という成績を納めたことが素晴らしかった。決して簡単ではないテイクオフ前でのガーグルを乗り越え、並み居る強豪を抑えて3日間ともゴールを決めて堂々の3位でした。もし学生での日本選手権者になっていれば、史上初の快挙でした。

スポーツクラスも、初出場の平岡選手が見事ゴールを決めて喜びを表して

いて、とても良い大会となりました。

2022年はコロナに負けずに大会が開催していけるといいですね！

[総合]

1位	田中 元気	大阪	2249点
2位	砂間 隆司	愛知	2182点
3位	松永 大輝	大阪	2006点
4位	太田 昇吾	茨城	1997点
5位	板垣 直樹	茨城	1978点
6位	鈴木 博司	岐阜	1973点
6位	小梶 溪太	神奈川	1973点

[女子]

1位	櫻井さやか	栃木	673点
2位	佐野 容子	和歌山	462点
3位	野尻 知里	茨城	411点

[学生]

1位	松永 大輝	大阪	2006点
----	-------	----	-------

[スポーツクラス]

1位	平岡 誉登	大阪	392点
2位	佐藤 央至	京都	38点



総合入賞者たち。田中元気選手、会心の笑顔。



女子は櫻井さやか選手が首位に。

JHFからのお知らせ

■HG教本／PG教本を好評頒布中

ハンググライダー技能証規程の改正に伴い、教本の内容も大幅に見直し、『JHFハンググライダー教本改訂版』を2021年6月に発行、頒布を開始しました。A4サイズ、224ページ、モノクロ印刷。（技能証規程の改定と教本改訂については、234号に掲載していますのでご覧ください。）

また、2021年3月、皆さんにお待ちいただいていた『JHFパラグライダー教本改訂版』を発行しました。A4サイズ、176ページ、カラー印刷。

どちらの教本も、写真や図を用いてわかりやすく解説しています。入門者はもちろんのこと、既に経験を積みフライトを楽しんでいるパイロットにもぜひ読んでいただきたい内容です。

HG教本、PG教本とも、1冊3,000円（送料込み）。一度に10冊以上ご注文の場合は、1冊2,800円です。JHF登録

スクールまたはJHF事務局にご注文ください。

事務局にご注文の場合は、JHFウェブサイト「JHFのご案内 [書籍情報]」から注文書をダウンロード、必要事項をご記入ください。代金をお振り込み（送金手数料はご負担ください）のうえ、注文書と代金振り込み控えを郵便またはFAXでJHF事務局にお送りください。ご入金を確認後、教本を発送します。

■チェック5タグを頒布中

事故撲滅をめざし飛行前点検をより確実に行うためのチェック5タグをご希望の方は、各地のJHF登録スクールでお求めください。JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）。メールかFAXでご連絡をお願いします。

■氏名・住所変更のお知らせを

発行のたびにJHFレポートが宛先不明で事務局に戻って来ます。お名前やご住所に変更があったら、早目に事務局にメールかFAXで下記をお知らせください。

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしもお仲間に転居された方がいたら「JHFに連絡した？」と声をかけて

いただけると、たいへん助かります。

■転居のお知らせや各種申し込み

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からののお知らせを、神奈川県、愛媛県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート236号

発行日：2022年（令和4年）1月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト



スポーツくじの収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

スポーツくじ BIG

www.toto-dream.com www.toto-growing.com
©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510、ALINCO製のDJ-PV1Dです。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。